

戦後池袋の娯楽文化とロサ会館

伊 部 知 顕

私は、池袋西口のロサ会館を運営しているロサラウンド株式会社の取締役を務めております伊部知顕と申します。私が伝え聞いたことと自分で調べたロサ会館にまつわる話を中心に戦後池袋の娯楽文化がどう紡がれてきたかをお話しします。そして今後どのように娯楽文化を紡いでいくのかも重ねてお話しします。まずは時計の針を過去に戻したいと思います。

ロサ会館建設は私の祖父である伊部禧作が行いました。まずは伊部禧作の人と書き必要がありますので戦前の話をしたと思います。禧作は明治四十一年（一九〇八年）に島根県安来町（現安来市）で生まれました。禧作の父である伊部喜作は祖父と同じで事業家肌の人でありまし

た。包丁鉄の特許を持っており、鹿島組（現鹿島建設）及び星野組にいて山陰線の工事をやり、それが終わってから退職し、新たに製鋼事業会社を設立しました。明治の終わり頃のことです。K・K安来製鋼所という砂鉄から特殊鋼（玉鋼）をつくる会社を始めました。当時、東の日本特殊鋼、西の安来製鋼といわれたくらいだったようです。しかし、大正九年（一九二〇年）の第一次世界大戦後の戦後恐慌による大不況で縮小せざるを得なくなり、喜作は代表を退任します。新しい事業計画を東京へ出て企画しましたが上手くいかず浪人の身となりました。それを見た祖父禧作は「金偏は好景気るときバカ景気だけど、不景気時は火が消えたようになる。金偏なんてやるもんじやないな。自分が職業を選ぶとすれば化学、それも景気、不景気にあま

り左右されない草冠がいんじゃないか。」と考えたそうです。それから禧作は薬業界を志します。発想の転換です。冒險心と言いましょか、新しいことへのチャレンジ精神が旺盛なのです。これは伊部家に共通している性格かもしれません。そうと決めたら一心に打ち込む禧作は明治大学中退後、化学系の会社を経てから製薬業に従事します。戦前、戦中、戦後といくつかの製薬会社を立ち上げました。今でもそれらの会社は社会で活躍しています。「医は仁、薬もまた仁」という理念で生きてきた人でした。その禧作は戦前、後に私の祖母となる尾形梅子と出会って結婚します。梅子は山形県上山で生まれました。尾形家は上京し東京で事業を行いました。夫の鋳物工場を曾祖母の尾形きんが一緒に手伝っていたそうです。今のサンシャイン60前の区営球場の辺りにその工場はあったそうです。ちなみに梅子は時習小学校に通っていたそうです。

戦争中、その工場は空襲で焼かれたとのことです。戦時中は兵器工場だったのではないかと私は推測します。そして禧作と梅子は三人の息子達と戦後を迎えるわけです。禧作は引き続き製薬会社を経営していきますが、妻の実家である尾形家の仕事はなくなりました。戦後日本が貧し

くなる中、食べていかなければなりません。禧作は「戦後に必要なのは娯楽だ。」と思ったそうです。明治大学時代の同級生に映画好きな友人がいて彼にアドヴァイスをもらいながら映画館を池袋西口につくることにしました。昭和二十一年（一九四六年）のことです。それが今のシネマ・ロサです。ロサはスペイン語で「薔薇」と言う意味です。禧作の弟が考えたそうです。どういう経緯で今の土地に来たのかわかりません。とにかく映画館をつくったそうです。

ちなみに宇佐美承著「池袋モンパルナス」（集英社文庫）によりますとここにクロッキー研究所があったと書いてありました。祖父は製薬会社を経営してましたので、映画館の人材及び経営体制を造り上げた後は、曾祖母、尾形きんを社長にして株式会社ロサ映画社をつくります。禧作が経営しつつ、現場の支配人を彼の同級生にお願いして運営していったようです。戦後すぐの娯楽が少ない時代に変遷繁盛したようにシネマ・セレサ、シネマ・リリオと映画館を増やしていきます。ちなみにセレサはスペイン語で「桜」、リリオは「百合」を意味します。最終的には今のロサ会館のところの前記3館と、池袋西口駅前の現在のみずほ銀行のある場所に、シネマ東宝をつくります。ロサ映画社は計4館体制となります。シネマ・ロサ、シネマ・セレサ、シネ

マ・リリオは計四〇〇席で、20世紀フォックスやワーナーなどのアメリカ映画をはじめ、洋画を中心とした映画を上映してまいりました。一方シネマ東宝は六〇二席で東宝映画



昔の池袋シネマ・ロサ



ロサ会館竣工前パンフレット表

を中心として上映してまいりました。戦後の娯楽の少ない時で映画館は大入り満員の毎日となりました。池袋西口もまだ闇市が残っていましたので区画整理の話があります。そこで社長の尾形さんは新宿や渋谷に比較すると、副都心として繁華街としての街づくりが遅れをとっている池袋に本格的なレジャー会館の建設を夢見ます。それが後のロサ会館です。

昭和四二年（一九六六年）九月に地鎮祭後、昭和四二年（一九六七年）二月一日より建設がはじまり、昭和四三年（一九六八年）一〇月一日にロサ会館は竣工披露式が行われた。当時のパンフレットによるとコンセプトは「モダンセンス アミューズメントセンター」とのことでした。第一回ふくろ祭りに合わせて竣工しました。ただし、六日前の九月二十五日には6F、7F、8Fのロサボウルが先行オープンしています。禧作は池袋西口をイメージ・チェンジしてノープルな街づくりをしたいと述べています。残念ながら尾形さんは昭和四十二年（一九六七年）一月に亡くなります。彼女は完成を見届けることなく亡くなりました。当時の日刊建設工業新聞によりますと次のように書かれています。

「鉄筋コンクリート造、地下三階、地上八階、塔屋二階、延べ一五、八二五・一〇〇平方メートルの規模と最新の設備を誇るこの建物はロサラード株式会社と西口娯楽街を代表する総合アミューズメントセンターとして建設したもので設計施工の利点をフルに生かした清水建設株式会社の優れた技術と若林所長以下現場スタッフの真摯な努力が見事に結実、若々しい息吹き

が満ちあふれる新興の街・池袋にふさわしいゴージャスな秀作をもつるとともに無災害記録六十二万時間の偉業を達成、本年七月二日に行われた昭和四十三年度全国安全週間労働大臣表彰式において優良作業所として進歩賞を獲得している。」

無災害記録とは本当に凄いことだと思えます。そのおかげか（？）未だに会館で大きな事故は起きておりません。二

◆ 会社の概要 ◆

会社名 □ 土地株式会社
 社 号 □ サ会館
 所在地 東京都豊島区西池袋1-37-12
 資本金 20,000,000円
 代表取締役 伊藤禧作
 会社設立 昭和2年8月1日



8F	ボーリング場
7F	ボーリング場
6F	ボーリング場
5F	サウナ風呂(予定)
4F	マンモスバー
3F	映画館 貸店舗
2F	映画館 貸店舗
1F	貸店舗
B1	映画館 駐車場 貸店舗
B2	映画館 駐車場 荷捌室 貸店舗
B3	駐車場

池袋西口  **ロサ会館**

ロサ会館竣工前パンフレット裏

○一一年三月十一日の東日本大震災においても大きなダメージは受けませんでした。清水建設さんにとつてもオフィス以外の商業でこの規模のビルを作ったことがなかったそうです。日本でも最初の大規模レジャービルと言っていると思います。また、同新聞は次のようにも書いています。

「このロサ会館は、国電池袋駅西口から歩いて二分、西口ロマンズ通りに面した格好の立地条件にあり、一階から五階までは亀甲型ゴールド色・ジュラクロン仕上げのアルキャスト、五階以上はセットバックして同じく亀甲型プレキャストコンクリート、アイボリー・ウォールコートスプレー仕上げの外装が見事に調和して豪華でユニークなエレベーションを形成、そのふところにはボーリング場、サウナ風呂、映画館、マンモスバー、スナックバー、レストラン、ティールームなどの食堂街、ハイセンスなショッピング街などを収容、名実ともに池袋の中心的アミューズメントセンターとして副都心池袋の発展に大きく寄与するものと期待される。」

開業当時、今の劇場通りは川越街道まで延びておらず、ト



ロサ会館完成時の日刊建設工業新聞

キワ通りが突き当りでした。そのため人通りは少なく、ロ
マンス通りの方が圧倒的に人通りが多かったため、正面玄
関は駅近い東側としたのです。現在は全体がピンク色です
が、開業当時四階以下は亀甲型のアルキャストパネルを使
用し、ゴールド色ジュラクロン焼き付けを施したようで
す。そこにサンブロンズ色の透明ガラスを嵌め込んだので
今と様相は全く違いました。亀甲について私個人は亀のよ
うに長生きし、亀の甲羅のようにしっかり守られるように
という祈りが込められているように感じます。お陰様でこ
れまで大きな事故もなく四十八年やってこられたのも亀甲
によるのだと思ってしまう。五階以上は亀甲型のプ
レキャストコンクリートパネルの上にアイボリー色の
ウォールコートスプレーで仕上げました。内外ともにゴー
ルド・シルバー・アイボリー系を主調とし、娯楽センタ
ーにふさわしい派手さと豪華さを表現しようです。色の話
のついでに現在のピンク色の由来の話もしましょう。現在
のピンク色にしたのは一九八九年の夏でした。世はバブル
期でありました。現社長の伊部季顕は当時事業拡大でアメ
リカでもビジネスをしておりました。ロサンゼルスを中心
に行っており、当地でみたピンク色の建物に感銘を受けて
ロサの薔薇をピンク色に染めようと発想したので。乾燥

したカリフォルニアの青空にピンク色は映えます。ただ彼
のイメージではもう少し濃いピンクのようでした。カリ
フォルニアの南側に位置するメキシコのルイス・バラガン
の建築のようなピンクでした。しかし、日本では当時その
ピンクが手に入らなかつたそうです。ロサ会館がピンク色
になって三〇年近くたち、今ではすっかりピンクのイメー
ジになりました。内装について、今年のあたまたに建築史家
の先生にお越しいただいて気づいたことがあります。先
生の話によりますと、一階床の真鍮の目地が珍しいと仰っ
てました。もう今ではできないと。一階タイルステ
ーション横の通路の床は大きな大理石に真鍮の目地が縁どら
れています。真鍮は五円玉の色です。きつと娯楽センタ
ーの派手さを出すために真鍮の縁取りをしたのでしよう。そ
してもう一つ先生が驚かれたのがロサ会館のコンクリート
です。ロサ会館のコンクリートはよく見ると木目がついて
います。先生によると一九六〇年代まで杉板を用いてコン
クリート型枠を創っていたようです。現在は合板（コンパ
ネ）や鋼製の型枠が用いられるのでコンクリートの表面は
豆腐をきれいに切つたように平らで滑らかです。ロサ会館
にあるコンクリートは杉板の木目が見えますので有機的な
コンクリートに感じます。貴重な昔の技術が残っているの



ロサ会館竣工披露式

です。今では杉板の型枠は値段も高く使われないそうです。次にロサ会館のテナントの変遷についてお話しします。オープン当時のチラシには次のように書かれています。

●九月二五日（竣工披露式より約一週間前）オープン 六階、七階、八階 ポーリング

●一〇月九日オープン予定 一階 道路面店舗
同右 映画館シネマロサ・セレサ

●十月下旬オープン予定 地下一階、二階、四階

●十一月初旬オープン予定 二階、三階、五階

つまり竣工と同時に満室オープンではありませんでした。テナント誘致の仕事もしたことない会社でしたのでリーシングには本当に苦労したようです。ロサ映画社の社長をやっていた尾形きんのつてでロサボウル、そして一階キッチンチェック、二階串の四季船越が決まったようです。キッチンチェックのオーナーは去年お亡くなりになった俳優の小泉博氏です。串の四季船越のオーナーは船越英二氏でした。映画館を経営していましたので芸能界とのつながりがあったものと思われます。その他のテナントは工事の設計施工をしてくれた清水建設さんをお願いしたと聞いています。何しろ家賃を建設工事代金に充てようとしていたにもかかわらず満室稼働にならず払えなくなってしまう、いきなり倒産の危機に直面しました。清水建設さんのご努力もありましたが、まず一階のメインテナントが決まりませんでした。今では一階から満室になるのが当然です

がこの時はそうではありませんでした。当時社長の伊部禎作は三人の息子や従兄弟達を集めて一階のメインテナントを探すように命じたそうです。二男である現社長の伊部季顕は当時パレル会社に勤めておりました。当時一世を風靡したファッションメーカーです。当時芸能界をはじめ、多くの文化人の顧客もいました。そういう中で季顕は東京プリンスホテル内の取引先ピサの支配人に相談しました。すると彼は一人のユダヤ系ウクライナ人を紹介くれたのです。その人の名前はミハイル・コーガン。太東貿易と言う会社の社長でした。コーガン氏が取り扱っていたのはクレーンゲームやピンボールなどアーケード用のゲームでした。季顕はとりあえず1Fの空いてるスペースにゲーム機を置くだけなら設備投資もいらず、ダメなら引き上げればよいと考えました。ただゲーム機をおいただけですが、お客様がどんどん来たそうです。今ではゲームセンターは当たり前のようにありますが、当時多くのゲーム機が一か所にある施設はなかったそうです。つまり大型ゲームセンターのはじまりだったのです。コーガン氏の太東貿易は後に株式会社タイトーになります。一〇年後の昭和五三年（一九七八年）にはスペースインベーダーを開発し、一大ブームを起こします。その時は朝のオーブンと同時にお客

様がなだれ込んできたそうです。ゲーム機を置くことではなくさんのお客様が来るようになり、空室も徐々に埋まりました。開業三年後にはほぼ満室稼働します。開業三年半後の日経ジャーナルに出した広告をご覧ください。一階〜五階までほぼ飲食店で埋まっています。今でも残っているのは一階清江苑さん、チェックさん、二階のおでんやまさん。やまさんは女優の渡辺えりさんがかつてアルバイトしていたことでも有名です。三階ウェストパークについて、今はオーナーの息子さんがついで大馬鹿地藏と四階魚やを運営しています。六階〜八階のロサボウルは元々テナントでしたが弊社が買収し、六階と七階に縮小し池袋ロサボウルとして運営しています。昭和四三年（一九六八年）〜昭和四四年（一九七九年）が会館第一期とすれば一九八〇年から第二期と考えられます。季顕が勤めていたパレル会社が昭和五十三年（一九七八年）に倒産して昭和五五年（一九八〇年）にロサラウンド株式会社に入社します。そして昭和六十一年（一九八六年）に代表取締役社長になります。入社して最初の仕事が屋上を貸してたテナントがビアガーデン等の経営に失敗し、残骸が放置されており、その撤去の裁判からでした。そして勝訴し、さて、屋上をどう活用しようかと考えたようです。当時銀座の小松ストアーの屋

割が直営店舗になりました。新規事業は一九九九年のLIVE INN ROSAです。それまで立席で三〇〇人規模のライブハウスは池袋にありませんでした。JPOPを中心に今でも継続しております。オープンングにはブレッド&バターとテリー伊藤氏にお越しいただきました。九〇年代の終わりに館内構成が現在に近いスタイルになりました。二〇〇六年に屋上のシテイテニスクラブ・ロサにおいて、テニス事業の合間にフットサル事業もはじめました。ジャパンフットサルコート株式会社（現サッカードットコム株式会社）さんをお願いして、レンタルコートや大会を行っていただいています。テニスにもフットサルにも使える新しい人工芝のコートに変更しました。二〇〇九年には8F池袋ロサボウルの所にタイトダーツスタジアムをつくります。日本初全四十二台のダーツ場でした。ダーツブームを引っ張って行ったと自負しております。五年間直営事業でやりましたが、今はトーキョーダーツスタジアムとしてテナントとなり全六三台と台数を増やし集客しています。そんな変遷をたどりながら、二〇一七年現在の館内の構成は次のようになります。

R F シテイテニスクラブ・ロサ

カフェラウンジ・ロサ

エフスタ！池袋

8 F トーキョーダーツスタジアム

7 F 池袋ロサボウル

6 F 池袋ロサボウル

5 F ビリヤード・ロサ

4 F スペースクリエイト自遊空間池袋ロサ店 魚や

3 F 大馬鹿地藏

2 F TSUTAYA おでんやま さど

1 F 池袋シネマ・ロサ タイトーステーション

一鳴 キッチンチェック

クレープハウスジャイブ

吉野家 焼き肉清江苑 みなと

B 1 F スーパー越後屋

B 2 F LIVE INN ROSA

R F、7 F、6 F、5 F、1 F 一部、B 2 F が直営店舗になります。私がいくつかの会社で仕事して、ロサラインド株式会社に入社したのは二〇一一年の一二月でした。入社して早五年近くになります。入社当初はアミューズメントセンターだったロサ会館をアミューズメント・ライフス



ビリヤード・ロサ



シティテニスクラブ・ロサ



LIVE INN ROSA



池袋ロサボウル

タイトルセンターに変えていこうというのが私の構想です。ここからはこの約五年間の動きとこれからの展望について述べたいと思います。まず、アミューズメントセンターとアミューズメントライフスタイルセンターの違いは何かと言いますと顧客に対しての心構えです。私が入社して思ったことは、アミューズメントセンターはお客様を待っているビジネスだということです。それまで営業をしてきた私としては違和感をおぼえました。もっともつとこちらから発信していかなければと思いました。ただただお客様を待っているだけでなく、お客様にもつとこちらから提案差し上げなければと思ったのです。一日二十四時間を人は平等に持っています。その二四時間の内の三〇分、或いは二時間をロサ会館で過ごしていただける方を増やしたいと考えました。毎週二時間、ロサ会館をご利用いただける方を増やせればと考えたのです。そのためには専門性を高め、文化的でなければなりません。今や文化経済の時代です。文化が経済を引っ張っていく時代でありますから単なる娯楽場ではないかと思っています。そこに文化的な要素がなければなりません。特に成熟化した日本において、文化度を高めていく必要があります。アミューズメントも文化ですから真面目に深掘していこうと思つたのです。ま

さに新しい時代の娯楽文化創造です。そしてもう一つ大事なことは地域社会です。私がビジネスをするにあたって視野に入れているのは地域です。日本の中の東京、東京の中の池袋、池袋の中のロサ会館と俯瞰することから始めます。この視点を持たないと井の中の蛙になりかねません。今や都市間競争の時代でありますから、池袋の魅力の一つにロサ会館がならなければなりません。池袋の名所の一つになるくらいでなければいけないのです。

それでは、各直営店舗とグループ会社であるロサ映画社運営の池袋シネマ・ロサについての現在と未来の展望を考へつつ、これからの娯楽文化の形を語ります。

RF シティテニスクラブ・ロサ

テニスは高齢者を中心、フットサルは子供から三〇代くらいのお客様が中心となっています。クラブハウス内にカフェラウンジ・ロサもあるのでテニスやフットサル終了後のコミュニティスペースとなっています。テニスのお客様はオープン当初から来られてる方もおり、もう三五年お越しただいでいます。引き続き老若男女が集まれる場をつくります。

7F/6F 池袋ロサボウル

ロサ会館開業当初からなので半世紀近く続いています。高齢者を中心としたクラブリーグをはじめ、ボウリングレッスンやキッズボウリングを行っています。昨年レーンの張替を行いガーターなしの、ノーガーターレーンも設置しているのでお子様でも安心して遊べます。毎週五〇組近いクラブが定期的に練習しに來られます。業界用語でクラブリーグと言いますが各クラブはボウリング後にランチに行ったりディナーに行ったりします。つまり自然とボウリングコミュニティが形成されており、ボウリングが彼ら彼女らの生活の一部になっています。

5F ビリヤード・ロサ

私が入社した当初は店舗の一部にダーツ場がありました。売上もそこそこありましたが、専門性を高めることとダーツ場を8Fに集約したためにダーツ台を撤去しました。同時にビリヤード場のフロアを全面禁煙にしました。タバコが付きもののビリヤード場ではありえないことでしたが実行しました。お陰様で女性客や親子で來られるお客様が増えました。キッズビリヤードも定期開催しています。また、ビリヤードの台や道具に着目して、「ビリヤード・カルチャーセミナー」をはじめました。例えばキューを作ってる職人呼んで製造過程を教えるセミナーを行っ

たり、トップ交換を学ぶセミナーも開催しました。遊ぶだけでなく学びを入れることで文化力を高められると思ったのです。

1F 池袋シネマ・ロサ

昭和二年から続く映画館も今では二館となりました。池袋において一番の老舗店となりました。映画興行はずっと厳しい状況ですが、単館映画館として応援して頂いております。また若手の作品をバックアップしてレイトショーで上映していますがデジタル化によってハードルが高くなってしまうました。映画文化を育てるには若手の映画監督が活躍できる場が必要です。この点に関しては切に考えなければいけないと思っています。

1F タイトーステーション

今でこそ、より大きな店舗は数多ありますが、ミハイル・コガンとはじめたゲームセンターは四八年になりました。去年よりICカードでゲームができるようになり、風営法の改正により、親子で夜一〇時まで楽しめるようになりました。高齢者にたくさんご利用頂いているのも弊社の特長です。店長が女性ですので入りやすい店舗づくりやコーヒーマービスを提供することで今までにない店舗づくりをしています。機器の入れ替えも頻繁に行いますし、イ



現在のロサ会館ファサード

ンターネットを使って他店との対戦がゲームが同時にできたりゲームコミュニティができつつあります。

B2F LIVE INN ROSA

生れては消えていくライブハウスですが、いつのまにか一七年も続き、池袋の老舗店になりました。J-POPを中心に定期的にライブイベントを行っています。若手バンドのバックアップも行っていて大学生の出演者が多いのも特長です。

今後の娯楽文化、つまりアミューズメント文化はICTと組み合わせたエンターテイメントと合体していく方向に向かっています。VR (Virtual Reality: 仮想現実) やAR (Augmented Reality: 拡張現実) などと融合していきます。本質的な所は残しつつ進化させねばなりません。お客様の興味軸も次々と変化していく中、弊社も変化していかなければなりません。そうすることで常に親善な状態を保つことが出来ます。人間が存在する限り娯楽はなくならないと思いますし、生活に欠かせないものと思います。今後池袋西口で娯楽文化を紡いでいきますので読者の皆様も是非一度お立ち寄りいただければ幸いです。

(ロサランド株式会社 取締役)



ロサ会館正面玄関